



2月23日

---

ローマへ向かうユーロスターの中。敢えて食堂車を利用しようと水など買わないで乗り込む。とはいえ昼はバーリで時間潰しに入ったマックで済ませている。イタリアの物価を考えるとマクドナルドの値段は決して安いとは言えないが、バールなどは長居できないのに対し、マックは世界共通、暇を持てあました若者が集う場所。

ところでイタリアの電車事情。携帯のマナーモードという概念はないらしくそこここで着信音が鳴る。会話もデッキに出る決まりはないらしくみんなぺちゃくちゃ携帯で話している。おおらかでよいな。私は一度日本の新幹線でうっかり着信音を鳴らして、隣のサラリーマンにこの馬鹿！くらいの罵倒を受けた。イタリアの新幹線は対面式の4人がけだし、開放的で気に入った。食堂車に水を買いにいって一等車を通ったが二等と違うのは空調が効いていて快適だったこと。私の座る二等は人の熱気で蒸し暑い。香水や体臭の混じりあった混沌とした空気。

ちなみに電車の中のお水のお値段は1、3ユーロ。もっとバカ高いかと思ってびくびく買いにいった。

あれから2時間後。4人がけのメンバーでおもいがけずおしゃべり大会になり、ふと会話が途切れみんなうとうとしてきたところ。メンバーは今からスペインに旅行に出かける年輩のご夫婦と若い女性と私。若い女性が英語で通訳してくれながらの会話。イタリア料理は気に入ったとか寿司を日本人は毎日食べているのかとかそんな他愛もない会話だったが楽しくあっというまに2時間が過ぎた。もうすぐローマだ。

ローマに到着。車内でずっと会話してきた女の子はローマの婚約者に会いにきたとのことだったが、彼がホームまで迎えにきていて盛大なキス。彼女とはメールアドレスを交換したのでまたメールでね！と別れる。

さて宿探し。ローマで本当にいいホテルに泊まりたかったら相当お金がかかる。中途半端な安宿よりもドミトリーのほうが友達ができるなあと思うものの、初日の宿は男女混合の部屋で着替えも面倒だった。というわけでYMCAの女性専用のドミトリーに行ってみた。生憎今日のみドミトリーはいっぱいでシングルルームになるが明日からドミトリーがあくので部屋を交換すればよいと言われそこに決めた。シングルルームはいたって簡素。修道女になった気分。でも快適。

さて疲れたので手早くご飯を食べてシャワーを浴びて早く眠りたいと思う。外に食べに出る。今までレストランを見つけるのも一苦勞の田舎にいたので、レストランがひしめいているのがありがたい。イタリアンの他に中華や韓国料理もみかけた。久しぶりにちゃんとスパゲティが食べたくて目についたレストランに入る。店員さんは日本語を話すし、メニューは日本語の解説つきで、本当に日本人がたくさんきているのだと実感。ついでに田舎の料金の倍くらいして、ローマは都会だと思った。たまにはトマト以外を、とアサリのスパゲティ。ミートソースのスパゲティの日本語解説が「トマトと少しの肉のスパゲティ」というのには笑った。日本語の辞書を見ながら一所懸命書いたのかなあ。

宿に戻る前に水を買って歩いていると、オペラ座にすごい人の波。一日くらい当日券に並んで見に行けないかと思う。立ち見でもよいな。

明日はナポリへの手頃なツアーを探しにいこうと思う。今から予約がとれるといいけれど。やっぱりナポリに自力で行く気がしない。同じ南の大きな港町バーリもかなり怖かった。駅にはいつも怪しげな男がうろついていて声をかけてくる。一度などクレジットカードを使っていると手を伸ばしてきたので必死に逃げた。ローマは駅に警官もたくさんいて安全な感じがする。

シャワーを浴びて倒れこむようにして眠って目が覚めた。日本にいるときからだが不眠気味で数時間ごとに目が覚めるのだった。



ローマの朝。宿の前の通りには市場がたった。1ユーロ均一のアクセサリなど心踊る店もありじっくり見て回る。

宿には朝食がつく。時間になって食堂へいく。日本人がいないかと淡い期待。いなかった。。しかも和気藹々と食べるというムードではなく、ティーンエイジャーくらいの女の子も60歳くらいのおばさんも黙々と素早く食べて去ってゆく。友達を作りたいとか考えているのは私くらいなのかも。がっかり。しかも食堂のコーヒーが泥水並のまずさ。パンも乾パン。安宿だから文句言えないけど。



というわけでコーヒーを飲み直しにテルミニ駅にきている。宿から徒歩5分ほどなのだ。日本と言えば東京駅。でも東京駅より随分お洒落なステーション。朝の雑踏を眺めつつカプチーノ。

2月24日

---



そろそろ暮れてくる時刻。満ちたりた気分であつとり空を眺める。古代遺跡と新しいアートの混在する街、ローマ。新旧の同居といえはニューヨークもそんな街だったが歴史の深さが違ふ。

よしもとばなながイタリアで読まれているとは聞いていたが本当にすごい。テルミニの巨大な書店に彼女のコーナーがあり全て平積みだ。

昼はバルベリーニ広場を眺めつつ、サーモンと白ワイン。とびきりおいしいワインだった。ワインは詳しくないのだが。

疲れた。ナポリのツアーの予約に鉄道チケットの変更。日本では1分で済む手続きが誇張でなくて30分かかる。茶目っ気たっぷりの係員だから憎めないのだけど。

汗をかいたので宿でシャワーを浴びよう。遺跡にみかん色の午後の陽射しがふりかかる。

昨夜は夕方宿へ戻り、シャワーを浴びたらいつものごとく眠い。早く晩御飯を食べてしまおうと街へ。中華レストランの看板に「望郷」という文字があり、しんみりしてつい入ってしまう。遠いアジア。遙かな故郷。

地球ってどのくらい大きいのか私にはまだ実感がわかない。世界を旅しつくしたとき、意外に

狭く感じるのかしら？

チャーハンと鶏肉料理とビールを注文。食べていると隣に日本人のカップルが座った。懐かしい日本語。気が付くと話しかけていた。学生さんたちで、とても優しく話し相手になってくれた。彼女のほうがフランスに留学中で、彼のほうが遊びにきてイタリア旅行中なのだとか。彼女のほうがとてもおとなっぽくてしっかりしている。色白の繊細なタイプの美人。男の子のほうはやや頼りない感じ。しっかりした女性って頼りない男子が好きだよなあと、私は自分の優秀な女友達のちょっと頼りない恋人たちを思い浮かべたのだった。それが、たった10日話していないだけなのに日本語がうまくでてこなくてびっくりした。私が慣れない一人旅で寂しくなって話しかけてしまってお邪魔してごめんなさいと言うと、私もフランスの田舎をこの間一人旅したら寂しくて病気になりましたわって彼女が優しく笑った。この二人に幸あれ！

さて宿に帰ると三人部屋のあと二人のルームメイトと対面。お母さんと11歳の娘という親子連れだった。お母さんのほうは私くらいの年齢かな？若くてチャーミング。英語で気さくに話しかけてくださる。スイスからやってきたそう。かなり英語が堪能。対して少女のほうはまだ学校で英語は習っていないので話せないそう。スイスでは学校教育のみであんなにぺらぺらになるのかなあ。自分が情けなくなるのだった。少し話して彼女たちが食事にでかけている間に私は眠ってしまったらしい。今は明け方。暗い部屋で携帯に向かうのだった。

今朝は同室の親子と朝食。やはり私の英語力のなさが悔やまれる。子供と一緒に旅することについてなど、もっとつっこんだ話がしたいのにもどかしい。本気で語学を勉強しようという気になる。

愛娘のSORAYAちゃんが漢字で自分の名前を教えてほしいというので書きやすい字がよいだらうと「空矢」と書いて意味を伝えた。お母さんは天から幸運に射抜かれるという意味ね！と解釈してくれて、よかったと思う。しかし当て字の意味を伝えるのに苦労した。

今は恒例の朝のコーヒータイム。明日はナポリとカプリ島ツアーなんだけど天気がいまいち。



午前はうろうろとローマの街の中を歩く。思わぬ場所に素敵な教会や広場があり、ただ歩いているだけで幸福な気分になる。サンティ・アポストリ教会という場所には度肝を抜かれる。ヨーロッパ宗教美術の結晶。道の街路樹がオレンジの樹木だったりして、実がたわわになっていて温暖な気候なのだと思う。静岡のいとこのうちに遊びにいったとき、普通に蜜柑がそこらじゅうになっていて驚いた。富山にはありえない光景。

お約束のトレヴィの泉にも寄った。(写真)。前回きたときコインを投げ入れたら再訪がなかった。またの訪問を願う。

途中で日本人団体客を見る。ほとんどが若い女性。日本女性って外国で見ると本当にかわいい。化粧のテクニック、ファッション、どれをとっても世界一なのではないか。小物使いのセンスなどは本当にうまいと思う。私はコ汚いダウンジャケットにジーンズでださいったらありゃしないと急に恥ずかしくなる。長旅のせいで肌がすごく荒れてきているし。ヨーロッパの乾燥は、湿潤な日本海側の人間にはつらい。

昼はイタリアン。これが失敗。トマトパスタを頼むと、日本の懐かしい喫茶店のナポリタンでもここまでひどくないだろうというケチャップ味。ありえない！

午後からはのんびり過ごす予定。

2月25日

---

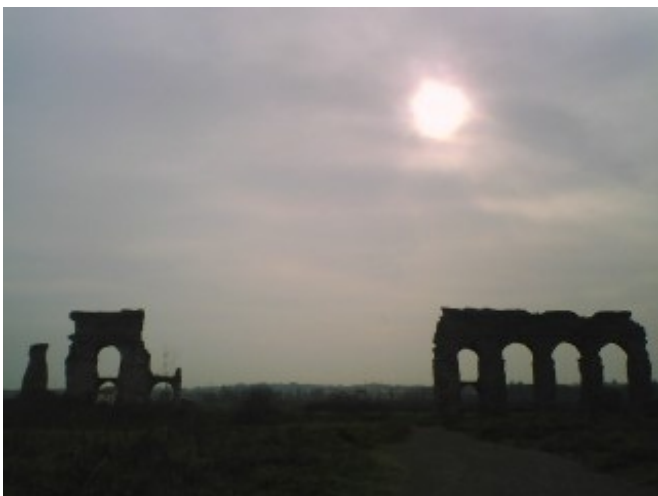


午後はインターネットカフェで過ごそうと出向く。

隣の男の子と仲良く話している店員の男性が彼女も日本人だよと紹介してくれて、隣の男の子と話が始まる。

ローマに滞在して2ヵ月という彼は愛媛出身の25歳。仲良くなって、古代ローマ帝国の水道橋を案内してもらうことに。

地下鉄にたった20分乗っただけなのにそこは別世界。冬なのに青々とした草原がどこまでも続く。そして紀元前4世紀のものだという水道橋が連なる。ゆっくりと散歩する。景色も良かったけれど会話も楽しかった。最後はちゃんとまたテルミニまで送ってもらった。連絡先とか聞かれるかなと思ったけれど聞かれなかったし、私も敢えて聞かなかった。半日だけのデート。心から楽しい時間だった。もう二度と会うことがないから旅先の出会いは美しいのかもしれない。



早朝。ナポリへの日帰りツアー参加のために準備をして待機。



同室には白人の女の子二人。どちらも天使のように美しい。愛想よく話しかけてくれるのだから私の私がどぎまぎしてしまう。顔が握り拳ほどしかないくらい小さくて、巻き毛のロングヘアのほうは(名前を聞いたが発音が難しく忘れてしまった!)ミラノの近くから遊びにきているイタリア人。やはりすごく英語が上手。私もとにかく英語だけでもなぜ学ばなかったのか激しく後悔。

昨日ローマを案内してくれた灯くん(あかりくんと読む。燈って書くの?と聞いたら難しいほうの漢字を思い浮かべられたのは初めてだと笑っていた)はイタリア語を勉強しているので基礎を教えてもらった。語尾の音で男性名詞か女性名詞かが違うとか、複数形になるときの活用とか。巻き舌の特訓とか。なかなかイタリア語は楽しそうなので、帰国したら英語ともども学びたい。これが次にフランスに行くとフランス語も勉強したくなるはず。いまさら語学に目覚める。遅すぎるといことはないよね?

同室のもう一人の女の子とはまだちゃんと話していない。今、日本は何時かと尋ねられ午後だと答えると、mysteriousと驚いていた。

写真は灯くん案内してもらった場所。とにかく美しいのだ。

今日も一日が始まる。

※※※※※

[続きはこちらからどうぞ~!](#)